

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	スーパー（店長）	来客数の動き	・高速道路の開通という外的要因があるにせよ、前年と比べて来客数が増加傾向にある。それに伴って、加工食品の販売量も好調に推移している。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年間で最もタクシーの売上の多い月である。また、12月1日から1回当たり200円の迎車料金をもらうようになったことから、タクシー1台当たりの売上は前年と比べて日勤で約20%、夜勤で約10%増加している。会社の売上も前年から13%の増加となった。秋頃から新しいドライバーが入ってくるようになり、教育期間を終えて稼働するようになったことから、新人ドライバーが高齢で退職するドライバーを上回るようになった。月末時点で在職している乗務員が久しぶりに前月を上回った。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・冬季の観光客数や観光客の雰囲気について、コロナ禍前の様相を取り戻している。外国人観光客も個人旅行、団体旅行を問わず活況を呈している。特に新規就航した香港定期便の利用客が目立っており、たくさんの土産を購入する姿はかつての爆買いを思い出すほどである。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月は居酒屋の予約がとても好調であり、予約の取れない日が続いている。ホテルの宴会料金が高騰していることで、市中の居酒屋に客が流れている様子がうかがえる。ただし、クリスマスについては、コロナ禍をきっかけに家庭で楽しむ習慣が根付いており、デパ地下が大にぎわいだった一方で、外食機会が大きく減るなど、外食産業にとっては大打撃だった。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は2022年比で165.2%、2021年比で329.2%、2020年比で264.4%、コロナ禍前の2019年比で120.4%となっている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・12月に入り販売量の動きに力強さが戻ってきた。特にホテルからの受注が好調である。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・クリスマス商材や年末商材について、高単価商品の動きが良くなっている。
	○	スーパー（従業員）	単価の動き	・値上げの動きが落ち着くまで、単価上昇が続くことになる。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車の生産体制が回復していることから、登録台数が順調に推移している。ただし、受注できる車種が限られていることから、春以降の動きがどうなるか分からない。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・見込みよりも売上が多くなるなど、景気はやや良い。コロナ禍前の12月ほどではないが、小グループの利用を中心に予約客が増えている。このところ、予約客以外は余り来店しないため、スムーズな人員配置ができており、落ち着いたサービス提供ができています。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・11月の国内線の航空機利用者数は、コロナ禍前と比べるとビジネス客の利用に伸びがみられないことから、10%弱の減少となっていた。一方、12月は年末年始の帰省需要に加えて、国内客及び外国人観光客による冬季観光需要の拡大が見込めるため、やや上向くことになる。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・コロナ禍が明けたことでこれまでの反動増がみられるようになってきている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・12月から迎車料金をもらうようになったこと、運賃の値上げが進んでいることから、売上が前年よりも増加している。日中の利用客数も順調に推移した。

○	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べると、人の動きが良くなっており、売上が増えている。コロナ禍が明けて初めての年末を迎えていることも人の動きの良さにつながっている。冬場であるため、今後は若干の落ち込みが出てくるとみられるが、このまま好調を維持することを期待している。
○	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・電気通信事業法の改正を控えて、駆け込み需要が増えており、前年以上の来客数となった。
○	美容室（経営者）	販売量の動き	・季節要因を加味した上でも、12月の売上はここ3か月間では良い方であった。前月比はもちろん、前年比も5%未満ではあるが上回りそうだ。
○	美容室（経営者）	単価の動き	・地域の歳末イベントやプレミアム付商品券の影響で好調だった。
□	百貨店（売場主任）	単価の動き	・富裕層やインバウンドの客単価が上昇しており、全体の客単価をけん引している。
□	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・来客数がコロナ禍前の水準まで戻っていない。売上はコロナ禍前の水準に回復しているが、物価高の影響で客単価が上がったためとみられる。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・営業するに当たって、客単価なども影響してくるが、何といても来客数の影響が最も大きくなる。来客数が前年を上回っている状況に変わりはないため、景気も変わらない。一方、雪の影響もあって、春を迎えるまで商圈が拡大することは考えにくい。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・市内店舗の来客数は前年並みであるが、地方店舗の来客数が伸びている。大雪の影響もあって、当社の営業地域においては近場の店舗で買物する客が増加しているとみられる。
□	スーパー（役員）	お客様の様子	・食品の値上がり浸透しているように見えるが、実際は特売品の販売に客が集中するなど、客の節約志向が強まっている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・値上げの影響で、今年はクリスマスケーキやオードブルなどの購入量が減っている。客単価の低下に加えて、来客数も減少傾向にある。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・現在の景気は天候に対する客の反応次第の面がある。特に今年は天候に左右されやすく、本当の景況感が見えにくくなっている。
□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・他業種や他産業の状況から、景気は上向いているとみられるものの、自分の周りの状況は3か月前と比べてそれほど変わっておらず、景気の良さを実感できない。
□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月らしい年末商戦の来客数が戻ってきている。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の推移をみると、年末ということもあって、最後に盛り返す動きがみられたが、全体の販売量は前年を下回った。ただし、大手自動車メーカーの不正問題の影響を受けた一時的な動きとも考えられるため、景気は変わっていない。
□	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数がさほど増減していない。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・前年並みの売上になりそうだが、来客数が減少しているため、手放しでは安心できない状況にある。単に優良客の購買が好調だった結果とも考えられる。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高止まりにより、販売量が減少傾向にある。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・年末商戦での需要拡大を見込んでいたが、年末の定番商品の販売量が減少した。仕入れがシビアになっていることもあって、年間を通して使用できる商品の購入が増えている。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・12月に入り景気が多少は良くなることを期待していたが、前年とほとんど変わらなかった。余り良い結果にはつながらなかったため、景気は変わらない。

□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当エリアの基幹産業である農業関連が比較的好調なこともあって、関連団体による旅行需要が順調に推移している。3か月前も現在も同様の状況にあることから、景気は変わっていない。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・人出はコロナ禍前の状態に回復しているものの、人手不足でタクシーの稼働台数が限られているため、思うように営業収入を見込めない状況にある。
□	通信会社（エリア担当）	それ以外	・通信キャリアの方針に左右される状況のため、景気は変わっていない。
□	通信会社（エリア担当）	販売量の動き	・今年は12月商戦の波がみられなかったことから、3か月前と景気は変わっていない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・12月前半はかなり閑散としていたが、後半になって盛り返しており、全体としては例年並みの売上が見込まれる。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建築コストの上昇により、顧客の住宅ローンの借入額が上限に差し掛かっている。
▲	商店街（代表者）	単価の動き	・ギフト需要に余り動きがみられない。低額品と高額品の2極化がますます広がっている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・物の価格が値上がりしているため、景気が余り良くないという話を客から聞くことが多い。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前は全国的に全国旅行支援が行われていたため、その頃と比べると、景気はやや悪くなっている。クーポンの利用が減っており、土産品の客単価も低下している。日によってはクーポンの利用がほとんどない日もみられる。来客数もクーポンが後押しになっていた面があるため、3か月前と比べて減っている。
▲	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・12月前半は異常なほど来客数が少なかった。後半になって客足が戻ってきたが、全体的には景気はやや悪くなっている。政局の不安定さが影響したためとみられる。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・価格が高騰していることで、全体的な買上点数が減少したままとっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・例年12月はクリスマスや年末などの催事予約商品の売上に占める割合が高くなるが、今年は予約が前年を下回った。曜日並びが良くなかったこともあるが、消費者の生活防衛意識が強まっているためと考えられる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・夏に比べると、来客数が減少傾向にある。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・例年、年末にかけて需要の高まるコート、スーツといった高単価商材の動きが鈍く、問合せも極端に減っている。外出する機会は増えているものの、購入まで気が回らない客が多いとみられる。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・12月は業界として1年で最も売上の少ない月である。前々年からの新型車効果の服感がみられることもあって、3か月前と比べて受注量が落ち込んでいる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月に引き続き、メーカーの生産が回復傾向にあり、受注残の車両の入庫が進んでいることで、前年と比べて売上が増えているものの、受注量が大幅に減少している。
▲	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・10～11月はスタッドレスタイヤの販売が好調に推移したものの、12月に入ると来客数が前年から15%減少し、客単価も低下している。特にスタッドレスタイヤなどの必需品以外の商品は売行きが悪くなっている。1月の初売りに期待している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・9月まで順調に伸びていた来客数も徐々に減少しており、12月は大幅な減少となった。年末商戦も厳しい状況となっている。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・特に国内旅行者が減少している。元々、動きが出にくい時期ではあるが、前年や2019年との比較でも減少傾向がみられる。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・コロナ禍前の運送収入と比較すると、段々と減少幅が大きくなっている。物価高に伴って景気が縮小しているとみられる。

	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響で生活必需品に使う金額が増えているため、当店の景気はやや悪くなっている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比べて、悪天候による欠航の日数が増えており、その結果、輸送量も伸び悩んでいる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の商談時間が以前と比べて長くなっている。分譲マンションの購入に対して慎重になっている客が増えていることがうかがえる。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当区域の住民の数は大きく変わっていないため、日用品及び飲食料品の必要量は目立って減少していないとみられるが、クリスマスや年末などの買物で商店街を訪れる客が減少している。別の地区で買物をしているのか、インターネットで購入しているのかは分からないが、例年、お歳暮や贈答品などで来客数が増加する店舗においても目に見えて来客数が増えている状況ではなかった。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価高の影響を受けて、地元客を始めとした国内客の予約状況が著しく悪くなっている。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅行のオフシーズンであるため、販売量が減ることは想定していたが、これまでコロナ禍前を上回る販売量で推移していたものが、コロナ禍前を下回る状況まで落ち込むことになった。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅が売れづらくなっており、ハウスメーカーの建売住宅の在庫がどんどん増えている。
企業動向関連	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・12月の販売量は前年比マイナス4%だったが、3か月前の9月の販売量は前年比マイナス21%だったため、景気は良くなっている。
(北海道)	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・局地的な大雪の影響で現場への移動が一時的にできなくなる地域もあったが、影響は小さく済んでいる。設計変更による追加工事もあり、当初計画を上回る利益の上積みが確実となっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・定温倉庫や冷蔵倉庫、サイロの保管量が堅調に推移している。年末需要の影響もあるが、紙パルプや飲料の動きに合わせて、一般雑貨の北海道・本州間のトレーラー輸送にも動きが出てきた。ただし、前年実績にはまだ到達しておらず、今期の農産品の荷動きも減少見込みのため、年明けの物量を見極めたい。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上は引き続き前年から5%強の伸びを示している。都市部の設備投資案件の旺盛な状況はしばらく続くことになる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・底堅い公共工事、北海道新幹線の延伸、都心部の再開発に加えて、半導体製造企業の進出に伴う動きもみられ始めていることから、道内の景気は上向いている。また、九州においても半導体関連や福岡の再開発などの需要がみられるなど、日本全体が堅調に推移している。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・依然として港湾貨物の輸出入が芳しくない状況にある。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・販売促進計画に大きな予算増加はみられないことから、景気は変わらない。
	□	司法書士	それ以外	・春闘である程度の賃上げがあったが、それ以上に物価が上昇している。毎日の暮らしが大変な状況であり、土地を買い、家を新築するという動きも落ち込んでいる。不動産関係者も今は耐えている。景気回復のためには、国による一層の物価対策が望まれる。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の見込みと比べると、少しだけはあるが、販売実績がアップしている。案件が動き始めていることで、受注も少しずつ増えているが、まだ安心できる状況ではない。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上、受注量共にやや減少している。

	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・工場の出荷台数が前年と比べて30%減少している。
	▲	建設業（従業員）	取引先の様子	・施工者不足の影響で、建設工事が半導体製造企業関連や防衛関連などに集中しており、その他の案件は、官民共に中止や延期の傾向がみられる。動きのある工事に関係している場合は一定の仕事量があるが、関係していない場合は仕事量が少なくなっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業から、物価高を反映した値上げにより、売上は確保しているものの、販売量が減少しているといった話や十分な値上げができず原価をカバーできないという話がみられる。また、輸入原材料価格やエネルギー価格の高止まり、人手不足に伴う人件費の増加が経営の重荷になっているという話もみられる。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・少し前と比べれば、円安は一段落しているが、資源や食糧、原材料の価格が高騰したままであるため、物価が上昇しており、景気を後退させている。
	×	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・果実の作柄が悪く、特にりんごが凶作のため、輸出の動きが全くみられない。1月に動きが出てくることを期待しているが、かなり厳しい状況にある。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼は相変わらず堅調を維持しており、求人獲得数が前年の1.7倍となっている。この数に飲食店などの求人数は含まれておらず、一般企業の事務、営業、システム人材などの求人で構成されていることから、企業の拡大基調がうかがえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・紙媒体及びWeb媒体において、求人数の減少傾向がみられる。求職者の就職決定率は改善しているが、構造的な人手不足の改善は進んでおらず、企業の求人意欲が潜在化しつつある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・採用手法について、求人媒体の利用だけでなく、様々な手法を取り入れる企業が増えている。全体的な求人数は増えているのかもしれないが、実態を把握しづらくなっている。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・諸物価が上昇し、実質賃金の減少が続いていることから、雇用環境は厳しいまま変わっていない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・11月の新規求職者数は前年比で9.0%の増加となり、有効求職者数は前年比で0.8%の増加となった。また、新規求人数は前年比で16.1%の減少と10か月連続での減少となったが、業況堅調な企業を中心に引き続き安定した求人が公開されている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における11月の有効求人倍率は0.93倍であり、3か月前との比較では0.03ポイント上回っている。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず、求人数の減少傾向が続いている。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当地の主力業界である建設業界において、仕事量の少ない状態が続いているため、雇用環境が厳しくなっている。
	×	*	*	*